



松本病院

地域医療連携室だより

Matsumoto National Hospital


 技師
放射線
師長
高橋
和通

 松本
病院


「先生紹介コーナー」などで懐かしい顔写真を拝見させていただいています。地域医療のために大変ご活躍されており、ご挨拶の訪問をさせていただくのを今から楽しみにしております。

さて、当院は近日中に、患者様にはスピーディで苦痛の少ない、そして先生方には診断機能に合わせた高性能マルチスライスCT (MDCT) を導入いたします。それに伴い、循環器領域、放射線治療領域に新たな分野が開かれます。また、これを機に共同利用の予約にインターネットを使ったオンライン予約システムを導入いたします。特に、土曜日、休日や夜間の予約に不自由をおかけしておりましたが、オンライン予約システムで365日、24時間リアルタイムでご利用いただけます。勿論従来からの電話予約も受付いたします。詳しいご案内は次号の「連携室だより」に掲載させていただきます。

私は地元に戻ったこの機会に地域医療連携にお役に立てればと、画像の専門技術者として恩返しができますよう、そして放射線科一丸となって先生方に質の高い画像を提供し、信頼が得られますよう日々研鑽してまいる所存であります。平成20年には松本病院は新たに再生することを約束されています。大切な患者様を新体制の病院にお迎えできる日が近いことを念じ、医療連携の絆を深め、先生方の更なる発展とご活躍を祈念申し上げてご挨拶とさせていただきます。

近隣の開業されている先生方におかれましては、当院の医療機器共同利用につき、ご支援とご協力をいただき深く感謝申し上げます。この度は「連携室だより」の大切な紙面をお借りして自己紹介と当院の共同利用について述べさせていただきます。

今年4月着任早々、米山院長から「地域医療連携室」の一員として活動するよう重要な任務を命ぜられました放射線科の高橋和通と申します。地元出身ですので、微力ながら地域医療連携に貢献できることを楽しみにしております。生まれは白鳥の飛来地で有名な安曇野市豊科です。趣味は下手の横好きで多趣味ですが、強いていえば日本庭園の観賞とゴルフです。豊科と穂高がホームコース (HC17) ですが、先生方の人数の足りない時は声を掛けて下されば馳せ参じます。

さて、国立病院が信州大学の隣

の旭町から現在ある村井町に移転して間もない昭和47年秋、私は東京の技師学校から当院に就職いたしました。それから23年の永きに亘り松本病院に勤務し、県内外の4施設を経て今年当院に赴任して参りました。当時の松本病院は、医事受付の順番待ちの人々で夜明け前の暗い廊下は長蛇の列でした。外来や放射線科の廊下も椅子に座ることもできないくらい大勢の患者さんで溢れていました。放射線治療装置は回転式のCo60照射装置からリニアックへ、暗室透視からX線TVへ、多軌道断層からCT、RI、MRIへと重装備の放射線機器を駆使し、技術、装置も充実しておりました。地域住民からは絶大な信頼を受けて栄光の時代を過ごしてまいりました。そうした環境の中、技師として、医療人として、人格形成から人生観までも松病で育てて頂きました。その頃お世話になった先生方は大方開業され、

開業医の先生紹介



高島小児科医院 高島 俊夫 院長

現在は、診療のあいまに走ることが習慣になっています。50分～60分間、時速10km位のスピードで毎日松本城のまわりを走っています。松本病院小児科には、いつも心良く患者さんを引き受けていただき大変お世話になっています。川崎病、溶血性尿毒症症候群、肺炎、乳児のRSウイルス感染症等ですが、私が担当している丸の内病院の1ヶ月健診で異常と思われるベビーもお願いしています。いつも詳細な返書をいただき、感銘すると同時に勉強させていただいています。今後とも宜しくお願いします。



私は診察する時に白衣は着ません。シャツにジーパン、もちろんノーネクタイです。患者さんとか母親の中には「ジーパン先生」と呼ぶ人もいます。注射、点滴、採血の時小回りがききますし、身軽に動けます。

診療所の中は、患者さんの書いた絵、手紙、おもちゃ、人形とともに、中日ドラゴンズグッズで埋まっています。診療机の横には、中日ドラゴンズ勝敗表が掛けてあり、毎日の勝敗のシールを貼るのが朝一番の仕事です。私の「ドラキチ」を患者さん、スタッフもよく知っていて、勝った時はニコニコして、負けた時は悲しいと言う評判です。私はごく自然にふるまっているつもりですが、何となくわかってしまうのでしょうか？

昭和61年に父の後を継ぎ開業医生活に入りました。大阪医科大学

卒業後、母校小児科学教室に入局、感染免疫研究室に入りました。研究室では細菌感染症と化学療法の仕事を10年以上つづけていました。従って、現在発売されている抗生物質は経口剤はもちろん注射剤も殆んどその開発にフェーズ1からたずさわっています。特に専門は緑膿菌で学位論文も「ヒト白血球の緑膿菌に対する感染防御能の研究」でした。

学生時代は野球部に所属し、私の体型からは想像しにくい捕手をやっていました。卒業後は、小児科教室に勤務しながら母校野球部の監督を5年間務めました。その間全医体優勝1回、西医体優勝2回と好成績を収めるなど、大変恵まれた監督生活を送ることが出来ました。今でも年1回当時の仲間が集まり思い出に浸りながら飲む会が継続しています。

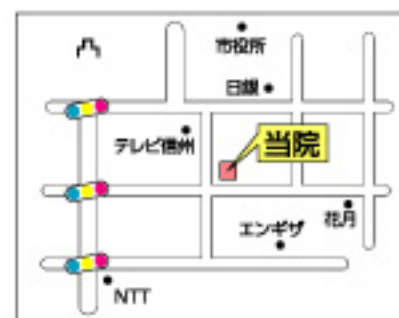
高島小児科医院

〒390-0873

長野県松本市丸の内2-1

TEL：0263-32-0657

FAX：0263-33-5986



内視鏡検査のご案内

胃内視鏡検査・大腸内視鏡検査等をご希望される施設(先生)は、
当院 地域医療連携室までご相談下さい。
ご利用をお待ちしております。



リレー形式

最近の診療トピックス(1)

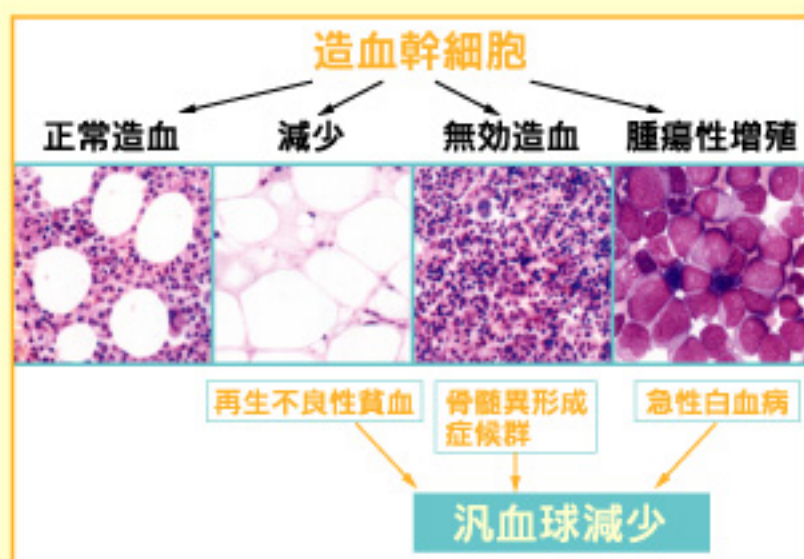
クリーンルーム増床

—より安全ながん治療が可能に—

さらに新しく大部屋（4人床）クリーンルーム（無菌室）が完成し、6月11日から使用しています。すでに5床（個室1床、大部屋4床）ありましたので、併せて「9床」に増床となりました。より安全に、より多くの血液疾患患者さんの治療が可能となりましたのでお知らせいたします。

クリーンルームの主な対象疾患としては、急性白血病、骨髄異形成症候群、再生不良性貧血ですが、悪性リンパ腫や多発性骨髄腫などの血液腫瘍性疾患のみならず他の腫瘍性疾患に対する化学療法より高度に白血球減少を来たした際にも対応できます。もしも治療等により好中球 $200/\mu\text{L}$ 以下の重症な白血球減少を来たした際には、その期間中はクリーンルームに入室して頂き、肺炎などの重篤な感染を予防することができます。病棟スタッフの知識や技術もより高まってきましたので、より高度の治療をおこなうことが可能となっております。さらに、様々の合併症のある血液疾患患者さんや65歳以上の高齢者の血液疾患患者さんに対してもよりご本人に適した治療ができる体制が整ってきました。

ご存知のように、がんの死亡数と罹患数はともに増加し続けており、その主な要因は人口の高齢化によると解析されており、白血病やリンパ腫などの血液造血器の腫瘍性疾患も増加を続けています。がん罹患数で特に増加が著しいのは65歳以上の高齢者においてで、若年者のみならず高齢者のがん診療の充実が求められています。当院もこうしたがん診療に貢献したいと思えます。



血液内科 北野喜良



4A病棟無菌室増床のご案内

松本病院4A病棟は血液・消化器・内分泌疾患を中心とした内科病棟で、5床ある無菌室の稼働率は90%を越え、血液・造血器疾患患者さまの増加に伴って、その需要はさらに高まっていました。今年の6月に4人床の無菌室が増床となったことで、免疫不全や化学療法後の易感染状態にある患者さまが、安全に安心して治療を受けられる環境が整いました。私たち看護スタッフは、無菌室という閉鎖空間の中にあっても、心身ともに満足していただける患者さま本位の看護の実践と、サービスの提供に努め、患者さまにとってより身近な存在でありたいと思います。

4A病棟看護師長
上原 恵子



勉強会のお知らせ

7月19日(木) 小児科勉強会 会議室
19:00~20:00



ご参加をお待ちしています。

松本の歳時記

6/30~7/1	島立の裸祭り (津島神社例祭)
7/10、7/11	五社のお祭り (松本神社例祭)
7/14	八坂さま (八坂明神例祭)
7/24、7/25	天神祭り (深志神社例祭)